

被災59周年3・1ビキニ・デー アピール

1954年3月1日、第五福竜丸が被曝したビキニ環礁での核実験からすでに半世紀を超えましたが、ビキニ事件は、ヒロシマ・ナガサキと同じようにけっして過去の出来事として終わるものではありません。

日本に於いてヒロシマ・ナガサキ・ビキニ-JCO臨界事故と核被害の歴史は続きました。そして2011年3月11日、福島第一原発事故による新たな被害が加わってしまいました。事故は、いまだ収束の見通しも立たない中で、いまも海、空、大地を激しく放射能で汚染し続け、多くの住民が放射能の脅威の中で、生活や健康そして就労などの不安と困難な状況に置かれています。

私たちは、一貫して「核と人類は共存できない」として反核、脱原発、ヒバクシャ連帯を訴えてきましたが、福島第一原発事故を起こさせてしまったことは痛恨の極みです。これ以上の核被害を繰り返してはなりません。核兵器や原発のある核社会からの決別が強く求められています。

一方で核兵器や原子力に固執する勢力もいまだ大きな力を持っています。核兵器保有は、米ロ英仏中の5カ国の核保有国の他、インドやパキスタン、イスラエル、朝鮮民主主義人民共和国などへ拡がり、いまだその廃絶の道は厳しいものがあります。2万発を超える核兵器の存在は人類の存亡に関わる問題で、核兵器廃絶は喫緊の課題です。

また、福島原発事故の現状を見れば、「脱原発」は当然のことです。50基ある原発のうち現在稼働しているのは大飯原発3、4号機のみとなりました。政権に復帰した自民党や電力関係者などの推進側は、原子力産業の生き残りをかけて原発の再稼働に向けて動き出していますが、これを許してはなりません。静岡では、東海地震の想定震源域の真ん中にある浜岡原発の存在は、巨大地震による災害と放射能災害が同時に起こりうる原発震災が、多くの専門家から指摘されています。そのことが第五福竜丸に続くヒバクシャを生み出す危険性をはらんでいます。浜岡原発の再稼働は絶対認めるわけにはいきません。

私たちは、広島・長崎そしてビキニ事件を契機に原水爆の禁止を訴えて運動を進めてきました。その中には、「ヒバクシャを再びつくりたくない」という広島・長崎やビキニのヒバクシャの強い願いがありました。残念ながらビキニ事件以降も、相次ぐ核実験や原子力の「平和利用」という美名の下で、多くのヒバクシャが生み出されてきました。私たちは あらためて核の歴史に終止符を打つとともに、ヒバクの歴史にも終止符を打たねばなりません。

そのためにも力を合わせてフクシマを核時代の終わりの始まりにしましょう。

2013年2月28日

被災59周年3・1ビキニ・デー全国集会参加者一同